

特別支援教育部会

1 研究主題

生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育む体育科・保健体育科学習の在り方
～主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業の創造と展開～

2 日 程

	9:00	9:50	10:45	11:45		13:30	14:30	15:00		16:30
	8:40	9:40	10:35	11:35	12:35		14:20	14:45		16:00
受付	開 会 行 事 (40分)	視 点 説 明	公 開 授 業 小 学 校 (45分)	公 開 授 業 特 別 支 援 (50分)	公 開 授 業 中 学 校 (50分)	昼 休 食 憩 (55分)	公 開 授 業 高 等 学 校 (50分)	指 導 な が 言 り (全 体) (15分)	授 業 研 究 (4部 会) (60分)	閉 会 行 事

① 公開授業

種 別	学 年	単 元	発 表 者
特別支援教育	高等部 第1・2・3学年	球 技 (ゴール型：サッカー)	県立日向ひまわり支援学校 教 諭 安 藝 航 平

② ワークショップ型授業研究

部 会	役 職	氏 名
特別支援教育	指導助言者	日本体育大学体育学部 准教授 村 井 敬太郎
	司 会 者	県立日南くろしお支援学校 教 諭 押 方 弘 樹
	記 録 者	県立日南くろしお支援学校 教 諭 太 田 有 紀
		県立児湯るびなす支援学校 教 諭 小 松 鉄 平
進 行	県立日向ひまわり支援学校 教 諭 臼 木 洋 智	

ア 事前研究会からの変化

○学習活動の内容が全く異なるため、当日に向けて変化させたことは少ない

- ・ 事前研の際に、ひなたプログラムや、ワークシートの内容を参観者が見ることが出来なかったため、本番は AppleTV とタブレットを活用して、手元やワークシートを見ることが出来るように工夫した。
- ・ スペースムーブの活動を繰り返し行うことで、生徒達も効率よく空いている場所を見つけたり、相手の隙を狙って通り抜けたり、仲間と協力して相手を引きつけて抜けるといった工夫を行うようになった。そのことが「ひまわりフットボール」につながり、空間を意識した攻撃を行うことができるようになった。

イ 視点に対する最終的な成果

(1) カリキュラムマネジメントの工夫

学習内容系統図の作成

- ・ 学習内容系統図を作成したおかげで、各段階での指導内容が分かりやすくなった。
- ・ 実態に応じた支援や指導の工夫を考える際に、前段階での目標等を確認することで指導のポイントを押さえた支援方法や工夫を考えることができた。

(2) 指導方法の工夫

- ・ 振り返り用の動画を高い位置から撮影することで、自分たちの動きを俯瞰的に見ることができ、良い動きや改善の必要な動き、空いている空間に気づきやすくなった。そのため、話し合いの中で、自分たちの課題や良い点に気づきやすくなり、話し合い活動を深めることができた。
- ・ 文字だけでなく動画で目標とする動きを繰り返し見ることで、動き方を理解することにつながった。
- ・ タブレット端末の中にある教材を見ながら、練習内容やポイントを自分たちで確認することで、具体的な話し合いができるようになった。

■授業風景



ひまわりフットボール



スペースムーブ



ICT を活用した準備運動、振り返り

ワークショップ型授業研究会について

【特別支援教育部会：サッカー】

1 日程 15:00～16:00 (60分)

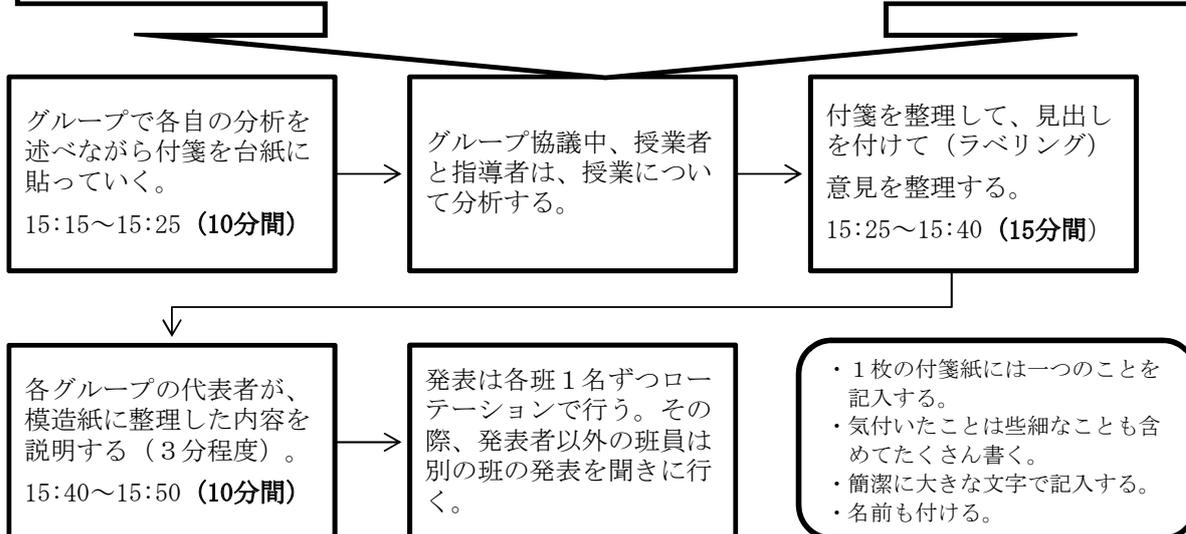
	時間	内容	授業者	助言者
15:01～	5分	授業者反省 ・ 日向ひまわり支援学校 安藝 航平 教諭	着席	着席
15:06～	5分	質疑・応答	着席	着席
15:10～	5分	ワークショップ型授業研究会の説明	着席	着席
15:15～	35分	ワークショップ ★ 特別支援学校部会公開授業 「球技：サッカー」 1 カリキュラム・マネジメントの工夫 ○ 学習内容系統図の作成は適切で効果的な活用がなされていたか 2 指導方法の工夫 ○ 授業の目標を達成するために、授業の展開における効率的で効果的なICT活用ができていたか	授業反省	周回
15:50～	10分	指導講評 ・ 日本体育大学体育学部 村井 敬太郎 准教授	着席	着席

2 授業参観の視点

<p>【特別支援教育部会公開授業「球技：サッカー」】</p> <p>1 カリキュラム・マネジメントの工夫</p> <p>○ 学習内容系統図の作成は適切で効果的な活用がなされていたか</p> <p>2 指導方法の工夫</p> <p>○ 授業の目標を達成するために、授業の展開における効率的で効果的なICT活用ができていたか</p>
--

3 ワークショップの進め方

<p>※授業開始前に付箋紙を配付する。</p> <p>○付箋紙へ授業参観の視点で記入をする。(主観を避け、事実を客観的に表現する。)</p> <p>【青色の付箋紙】・・・『生徒の良いところ』『教師の良いところ』</p> <p>【赤色の付箋紙】・・・『生徒の改善点』『教師の改善点』</p> <p>【黄色の付箋紙】・・・『質問したい点』『疑問点』</p> <p>① 授業参観時に、模造紙(学習指導過程拡大)に黄色の付箋紙を貼り付ける。</p> <p>② 研究部員で、付箋を整理し、授業研究会までに内容を授業者に伝える。</p> <p>③ 授業者は、その質問に沿って、応答する。</p> <p>※ ワークショップ時に新たな質問点・疑問点が生じた場合は、黄色の付箋紙を活用する。</p>
--



■授業者反省 安藝教諭

3点(先生方のご意見も聞きたい)

- ・スペースムーブで生徒が転倒した。普段から転倒することが多いので安全に対する声かけ、配慮が必要だった。
- ・生徒の声かけを促すため床に色を付けた。教師の言葉かけて生徒同士の声かけを妨げることもあったので気を付けたい。
- ・知的障害の生徒は生徒の実態に応じて発表の支援が必要だと感じた。

「御意見依頼」

ボールを蹴ったりする運動に対して興味関心を持っていない生徒はどうすればいいか。興味がもちやすい指導、支援の方法があれば聞きたい。

■質疑の応答(質問の付箋紙から)

Q:ゴール前の守備は今後あるのか。

A:実態・人数を考えると守備を入れることはできない。本年度の実施は今のカタチでしたい。

Q:スペースムーブにおいて相手をかかわす方法は教えたのか。

A:フェイント、おびき寄せ、ディフェンスの動きをよく見るなど最初にアドバイスをした。

Q:ミニゲーム(ひまわりフットボール)の発想はどのようにしているのか。

A:攻守の切り替えが難しいと思ったのでそこを省いた。空間に対する意識を狙いにして色をつけて場所を指定した。色を付けることで生徒が指示を出しやすく、視覚的に理解をしやすい。

Q:発達段階表から動画を観るシステムはどのように作られたのか。

A:学習指導要領を参考にスキルチェック表を作成した。Keynoteを使用して生徒が扱いやすいように動画を作成した。紙媒体でもファイルに閉じて置き、できたところにシールをはってわかりやすくした。

Q:課題解決を中盤に設定しなかったのはなぜでしょうか。

A:「ひなたプログラム」の活用と空間の活用を盛り込みたかった。課題解決の内容まで至らなかった。今後、課題解決型の授業を実践できるようにしたい。

■ワークショップまとめ

A班

良かった点

- ・ スペースを意識してできていた。
- ・ Keynote の資料作成の方法をぜひ教えて欲しい。
- ・ TI の言葉かけが子どもたちに寄り添って意欲を高めていた。

課題

- ・ 授業の始まりがわからなかった。
- ・ ボールを止める、トラップなどの基礎的な技能の習得が課題だと思った。
- ・ 技能、意欲の低い生徒への支援方法を今後検討する必要があると思った。

B班

良かった点

- ・ 先生方の言葉かけがよかった。
- ・ ルールの工夫がよかった。空いているスペースを見つけることができるルールになっていた。
- ・ 生徒が自分たちで伝え合うことができていた。

課題

- ・ 最後の反省で言葉だけだった。タブレットを使用して記録として残す必要があると思う。
- ・ 次回はリーグ戦があることを知っていたのか？ それに対して目標を立てていたのか？

回答 生徒に告知はしている。勝敗を決めることを伝えている。再確認の言葉が必要だった。

C班

良かった点

- ・ ICT の活用がよかった。「ひなたプログラム」や振り返りに活用し、生徒が主体的に動いていた。それにより、先生方が他の支援をすることができていた。
- ・ ひまわりフットボールのルールがよかった。生徒がかたまらず、空間を意識できるルールだった。生徒同士の言葉かけもあった。

課題

- ・ スペースにパスが通らないこともあり、受ける側が声を出す、手を振るなど工夫があるとよかった。
- ・ プレーを止めて指導するとよかった。失敗したことをすぐに振り返るとよかった。

D班

良かった点

- ・ 教材が視覚的にわかりやすかった。
- ・ 生徒はインサイドキック、トラップができていた。
- ・ 単元の構成がよかった。
- ・ TI の雰囲気よかった。
- ・ 見学していた生徒もプレー中に言葉かけをしていたことがよかった。

課題

- ・ ひまわりフットボールの中で、実態の高い生徒に対してゴールを複数用意して空いている空間をみつけれられるようにするとよい。また、ゴールによって点数が変化するなど工夫することで、意欲的に取り組めることも考えられる。

質問

振り返りをする際のポイントは教えていたのか。また、どのような練習をどのくらいしてきたのか。

回答

- ・ 振り返りにおいて、子供一人一人の視点があってもよかった。空間がテーマの生徒、走りこむことがテーマの生徒、パスが何回通ったかがテーマなど複数用意できるとよかった。
- ・ 横の空間はスペースムーブをとおして学んだ。ひまわりフットボールは、守備がない状態から試合をするなかで、自分たちで気づくこともあった。縦、横1マスずつのパスばかりだったが、長いパスを出すことを伝えと、遠くにパスすることができるようになってきた。

■指導助言 村井教授

- ・ 体育の授業は、適切な動き、運動量、多様な動きが大切。また、時間の確保、空間の確保、仲間の確保も大切である。今回は、時間、仲間、空間が踏まえられていた。
- ・ 知的障がい児の動きは、その場で上手になることだけでなく、将来的に自分で考え、判断して動くことが大切であり、究極的な目標である。ひまわりフットボールは適切であった。
- ・ しなやかな動きをつくることを取り入れてもよかった。「気を付け」、「礼」からスタートする。授業では「気を付け」がどんな姿勢なのか。必要などころに力を入れているか見てほしい。「気を付け」をすることで体の軸ができ、授業の入りがスムーズになる。細かいが、そこを大事にしてほしい。
- ・ 準備運動は、一つ一つの動きをみたり、丁寧に指導したりすることも必要。伸脚は伸ばしている足と反対の足を伸ばすとき、足を開いたまま左右の足を入れ替えることが大切。強制はしなくていいが、意識してほしい。しっかりとできると主運動における動きが変わってくる。
- ・ 次年度以降、ひまわりフットボールを継続して取り組んでほしい。補助具などのいらぬものは外していく。
- ・ ティーチングの質を高めるため、必要な時に必要な事を必要なだけ指導・支援する。生徒が混乱しないようにしてほしい。また、教師の位置取りや距離感も考えてほしい。教師が隣にいることで生徒が動けなくなっている場合もある。
- ・ ICT の活用について、タブレットの動画で自分の動きを振り返るのは難しいことである。何に注目するのは難しい。実態に応じて細かく設定していくことが必要。チェックリストを作成するなどの工夫も必要である。
- ・ 全体的に質の高い授業だと思った。このままのルールで、継続して取り組んでほしい。